

図書館利用者に見る高齢者の情報選択と検索傾向*

～鎌ヶ谷市立中央図書館での調査を基に～

藤原達生(学籍番号 200921746)

指導教員：歳森敦

副指導教員：松林麻実子

1. はじめに

高齢者の増加とともに公共図書館利用者における高齢者の割合も大きくなり、高齢者サービスの整備が急務である。しかし、現在の日本の公共図書館では、高齢者サービスに関するガイドラインがなく、サービスを考える上で必要な、高齢者のニーズに関する研究も乏しいのが現状である。本研究ではこのような現状に焦点を当てた。

2. 目的

日本の公共図書館では、必要性を感じつつも高齢者対策をもたない図書館が多い。高齢者サービスを充実していくためには、高齢者の社会的位置づけ、図書館へのニーズを明らかにし、図書館の役割を考察することが必要ではないかと考えた。そのため、本研究の目的を、高齢者の興味のある情報や図書館の利用に関する特徴を示すこと、また、その特徴と高齢者の社会的位置づけを基に図書館が担うべき役割を考察することとした。

*“Information Choice and the Search Tendency of a Senior Citizen as a Library User -Based on the questionnaire in the Kamagaya Public Library-” by Tatsuo FUJIWARA

3. 研究方法

3. 1 文献調査

図書館の高齢者へのサービスに関する既存の研究を整理し、公的機関のデータなどを対象として文献調査を実施した。

3. 2 質問紙調査

千葉県鎌ヶ谷市中央図書館で来館者調査を実施した。高齢者への情報提供を積極的に行っていること、高齢者の図書館利用も多い自治体であることを理由に調査を依頼した。

4. 調査結果

4. 1 文献調査の結果

高齢者の社会的位置づけとして、社会の支え手としての期待が大きくなったことが明らかとなった。また、高齢者の特徴として、高齢者と捉える年齢の上昇、自立志向が高くなっていること、活字離れが緩やかで、パソコンの利用は少ないこと、そして生きがいを感じるために、生涯学習や健康維持に取り組んでいることなどが挙げられる。

4. 2 質問紙調査の結果

4. 2. 1 利用目的

図書館の利用目的では、「館内で本・雑誌・新聞を読む」利用者が多いことが高齢者の特徴である。高齢になるにつれ、自分の時間を過ごすために来館し、読みたいものを探すという利用方法を好むようになり、利用頻度も

増加すると推測される。

4. 2. 2 探索方法の印象

本棚での探索は自分の探しているものに気付くことや思わぬ発見を目的とした探索、パソコンや職員を利用した探索は特定の資料の探索方法と認識されている。

高齢者は、本棚での探索に集中する傾向が見られ、また職員の利用が高齢になるほど増加し、パソコンの利用が減少する。

4. 2. 3 健康情報への情報要求の特性

健康に関する本を探索する場合、パソコンや職員の利用が低下し、本棚だけの利用に集中する傾向が見られる。ただし、パソコン利用が単に減少するだけであることに対して、職員利用はやめる人がいる一方でパソコンや本棚利用から職員のみ利用に転じる人が観察された。職員だけを利用するようになった人は「何を本当に探しているか気づく」「思わぬ発見がある」に強い印象を持つなど、職員と本棚に類似した印象を持っていることが確認された。

こうした傾向は利用者共通のものであった。そのため、健康に関する本の探索は年齢に関係なく、特定のキーワードから探すパソコンによる探索が行い難く、利用者は何が自分にとって必要な資料なのかを、見つけ出そうとして本棚や職員を利用していると推測する。

4. 2. 4 趣味に見られる特徴

趣味を行う理由として健康をあげた高齢者が60%を超えた。また、趣味の活動に関しても図書館を利用することが多く、「少しある」も含め約90%が利用している事を確認した。

5. まとめ

高齢になるにつれ「館内で本・雑誌・新聞を閲覧する」利用が増える、また、この層は利用頻度が高い傾向を確認した。高齢者の増加と共にこうした利用が増加するのではないかと推測される。

高齢利用者の多くは、趣味のために図書館を利用し、趣味の活動を行う理由では、健康維持が特徴として表れた。図書館からもサークル活動や社会参加に関する情報を紹介することで、高齢者の健康維持や社会参加はより活発なものになっていくと思われる。

高齢者は、思わぬ発見や自分の探しているものに気づくことを期待して、本棚を利用した探索方法を好む傾向がある。高齢者が情報を探索しやすくするために、配架方法や書架の配置、高さ、コーナーなどを設けるなどの工夫が効果的であろう。

健康に関する本の探索は、世代に関わらずニーズが漠然としており、本棚や職員を利用して自分の本当に探しているものを見つける、という探索方法が望まれていることが推察される。健康コーナー設置、健康情報の相談を行うなどの取り組みは、広いニーズに对应していくことになるのではないだろうか。

参考文献

- [1] 金 恵成 「高齢者の生活の変化と学習課題」. 大阪観光大学紀要, 2008, 第8号, p. 15 - 23
- [2] 堀 薫夫「高齢者の図書館利用と読書活動をめぐる問題」. 現代の図書館 2006, 44(3), p. 133-139
- [3] 大橋 一二「高齢者と図書館」. 図書館界, 1989, 40(5), p. 228-235